

第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 平成23年11月2日(水)
学 級 一戸町立奥中山中学校3学年
(男子11名 女子17名 計28名)
指導者 金田一文紀 小野靖子

1 題材名 3年間の交流活動から学んだことを、発信しよう！

2 題材設定の理由

(1) 本校の交流活動について

本校では、隣接している障がい者施設との交流活動が盛んであり、様々な体験を通して心を育てる学習の充実を図っている。生徒たちは、小学校の時から隣接している施設との交流活動を行っており、これまでの経験からこのような体験に対してそれほど抵抗なく活動する姿勢が整っている。地域の方々も含めて、障がい者と共に暮らすことに対して、望ましい風土がこの奥中山にある。他に対しての思いやりだけではなく、自己を見つめる機会が日常的にあり、心を育てる環境としては本当に素晴らしい地域だと感じている。

(2) 生徒の実態

この学年の特性として、理解力のある生徒が多く、授業での発言も比較的活発であり、行事などはそつなくこなすことができる。障がいのある方々との交流活動においては、積極的にかかわろうとする生徒が多い。

しかしながら、集団として見た時、仲間との人間関係に悩みを持ち、あきらめを感じている生徒も少なくない。そのために、全体の場で、発言することはできるのだが、気持ちを述べることや、自ら積極的に言動することにためらいを持っている生徒が多い。

よって、活動の全体での振り返り方や、そのまとめについても生徒の実態に即した方法をとる必要がある。

(3) 研究とのかかわり

この題材は、3年間の体験活動を振り返るものである。研究の基本構想に当てはめると、事後学習における振り返り活動【手立て1】の充実をねらったものである。体験的活動に対する振り返りは、これまでも行っていたものであるが、個人としての成果と課題を明らかにすることが主目的であった。今回は、将来に向けての実践的な力を養うために、成果や課題を外へ発信することを目的とすることで、振り返り活動の発展をねらった。

また、本研究では、振り返り場面において、体験で感じたことを言葉で伝えたり、考えを交流することで、考えを深めさせることに取り組んできた(伝え合う力を高める工夫【手立て2】)。その工夫として本題材では、個→小集団→一斉といった授業形態を取ったり、バズセッション型のワークショップによる意見交流の方法を用いている。

(4) 指導構想

まずは、3年間の交流活動の中で、実践的に学んできたことを振り返らせる。その中から、将来、自分

が共生社会の主体者となるための価値をつかませたい。その上で、自分が他者に対して一番伝えたい思いを導き、それを伝える表現方法を、これまでの学習や体験的活動をベースにして、自分に合った方法を追究することで、共生社会の一員としての資質を促したい。

3 本題材のねらいと評価基準

(1) 題材の目標

これまでの障がいのある方々との交流活動から実践的に学んだ内容を振り返り、その価値を確かめ、さらに奥中の外の社会に対し、各自の思いを伝える方法を追究する活動を通して、将来、全ての人が共生する社会の実現に向けた主体者足り得る資質を養う。

(2) 題材で育てようとする資質や能力及び態度

【よりよく問題を解決する資質や能力】

ア 自分の体験をもとに適切に課題（表現方法）を設定する。【振り返り活動】

【学び方やものの考え方】

イ 相手や目的、意図に応じて分かりやすく説明する。【伝え合う力】

【主体的・創造的、協同的に取り組む態度】

ウ 作品を完成させ、地域に発信する。

エ 互いの特徴を生かし、意見交流を行う。【伝え合う力】

【自己の生き方】

オ 共生社会の一員として、学んだことを生かそうとする意欲。【振り返り活動】

(3) 題材で学ぶ内容

ア これまでの体験的活動（障がい者との交流活動）から学んだことを振り返る。

イ 自分の考えを分かりやすく伝える方法。

ウ 意見交流を通して、自分の考えを深めさせること

エ 自分の思いを、作品という形にすること。

(4) 評価規準

評価の観点	よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的・創造的、協同的に取り組む態度	自己の生き方
題材の評価規準	自らの体験をもとに、適切な表現方法を考えている。 【ア】	自分のプランを分かりやすく伝える方法を追究している。 【イ】	作品の完成に向け意欲的に活動している。 【ウ】 他者の発表を聞き、意見交流しながら、自分の考えを深めさせる 【エ】	作品づくりを通して、共生社会の一員として学んだことを生かそうとしている。 【オ】

4 指導計画及び評価計画

日時	学習内容	形態・学習活動・【評価】
10月26日(水)		
27日(木) 学活	○オリエンテーション ○3年間の交流活動の振り返り ○地域へ発信する方法の追究①	個→一斉→個 ・3年間の活動を振り返り、自ら学びとったことは何か。ワークシートに記入しながら、まとめる。【ア】 ・自分の学びとったモノを、地域に発信するための方法を追究する。【イ】
28日(金) 総合	○地域へ発信する方法の追究②	個→小グループ ・個々に考えた発信する方法を、全体で交流する。 ・個人で、発信方法の選択をし、内容を具体化する。 ・方法を同じくするもので、グループをつくる。 ・グループで交流しながら、内容を一本化し決定し、その完成までのプランをつくる。① 【イ】【ウ】【エ】
31日(月) 総合	○プレゼンの準備①	小グループ ・グループで交流しながら、内容を一本化し、その完成までのプランをつくる。② 【イ】【ウ】【エ】
11月1日(火) 総合	○プレゼンの準備②	小グループ ・グループ内でプレゼンテーションの準備を完成させ、リハーサルをする。【イ】【ウ】
本時2日(水) 総合	プレゼン②	一斉 グループによるプレゼン。意見交換をする。【イ】【エ】【オ】
11月2週から 12月2週 総合	製作時間5時間	小グループ プレゼンを終えて、計画の修正を行い、グループで制作を開始する。【ウ】
12月3週1H	総 作品発表会	一斉 作品の発表、展示等を行い、互いに評価し合う。【イ】【ウ】【エ】【オ】
冬休み以降		発信

5 本時の展開

ア ねらい

- ①自分のプランを分かりやすく伝える方法を追究している。
- ②他者の発表を聞き、意見交流しながら、自分の考えを深めさせる。

イ 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点及び支援の工夫 ○評価について	研究とのかかわり
導入 (3)	1 学習課題の確認	・本時の課題を確認する。	
展 開 (45)	地域へ発信するプランを追究しよう！ ～プレゼンテーション～		
	2 プレゼンテーション テーマ「交流活動で学んだことを、地域に発信しよう」 (1) プレゼン発表 ①伝えたいメッセージ ②発信するために選んだ方法 ③この方法を選んだ理由 ④具体的な内容	・小グループによるプレゼンを行い、発表・質疑は一組ずつ行う。 ○イメージ図や設計図などを用い、分かりやすい発表に努めているか。【イ】 ・聞くほうには、メモを取りながら聞く。	○自分のプランを分かりやすく伝えること【伝え合う力】
	(2) 質疑応答	・周囲と話し合う時間を取る。 ○質問できればおおむね良い。発表者の意図をより深くさぐれるような質問ができればなおよい。【エ】	○質疑、応答による【伝え合う力】
	3 意見交流	・今日の発表者のプランを聞いて、気付いたことや自分のプランの修正点についてワークシートに記入し、発表する。 ○発表者の良かった点について感想が言えたらおおむねよい。自分のプランとの比較をしながら、良かった点について具体的に伝えられればなおよい。【エ】【オ】	○ワークシート記入、周囲との交流、発表による【振り返り活動】
終末 (2)	4 授業のまとめ	・生徒の発表をもとに、本時のまとめをする。	

ウ 本時の評価

- ①自分のプランを分かりやすく伝える方法を追究しているか。
- ②他者の発表を聞き、意見交流しながら、自分の考えを深めることができたか。